



白鷹町歴史民俗資料館 あゆみしる

1年間の活動（年報）

令和5年度(2023.4~2024.3) 第2号

発行 2024.3.31

【目次】

1. あいさつ	1 ページ
2. 企画展示・ワークショップ・関連イベント	2
3. 入館者数	7
4. 施設活用事例	8
5. アンケート結果	9
6. 施設概要	11

1. あいさつ

当館は白鷹町の歴史・文化に関わる学習や調査、情報発信、保存・伝承を担い、町内外と広く交流する施設として令和4年に開館しました。2年目にあたる本年度はフラワー長井線全線開通100周年を祝した展示や白鷹町文化交流センターあゆむとの共催企画展示など、周囲のイベントや施設と連動することができました。未成熟な館ではありますが、今後も周囲との連携を大切に、文化面から白鷹町を喧伝してまいります。

館長 橋本 秀和

2. 企画展示・ワークショップ・関連イベント

白鷹町歴史民俗資料館では、企画展 3 回、ワークショップ 2 回、連動企画 1 回を行った。本館の開館日は金・土・日曜日の週 3 日を基本とし、見学予約または企画展の開催に合わせて他の曜日も開館した。

【企画展示】

◆ 全線開通100周年記念 フラワー長井線と白鷹町

4月15日～6月11日（5月3～7日開館。32日間） 来場者:426名

大正12年（1923）4月22日、荒砥駅が開通し、赤湯駅から当町を結ぶ長井軽便鉄道（荒砥駅開通後は長井線と改名、昭和63年よりフラワー長井線）が全線開通してから令和5年で100年を迎えた。これを祝した企画展を開催した。

明治45年（1912）、鉄道敷設事業に着手するが長井駅終点と発表された。荒砥終点を望む長井駅以北の地域では、最上川の右岸（荒砥・東根・伊佐沢など）と左岸（鮎貝・蚕桑など）に分かれて自らの地域に敷設しようと請願書を繰り返し提出した。この請願書や経緯が分かる明治・大正期の文書を紹介した。また、古写真や山形鉄道株式会社社長の中井晃氏より借用した記念切符や各駅模型、改札鋏などを展示し、昭和の日本国有鉄道時代から、昭和63年（1988）年に第三セクターの山形鉄道の運営に切り替わり、「フラワー長井線」として親しまれる現在に至るまでを紹介した。



請願書と建設時の写真



全線開通当時の記念絵葉書



大正15年地図と古写真



駅舎模型



記念切符



改札鋏

◆ 我が家の紬展

4月15日～6月11日（5月3～7日開館。32日間）

「全線開通100周年記念 フラワー長井線と白鷹町」と同時開催したミニ展示。長井線が開通した大正期、白鷹・長井では盛んだった養蚕を背景として、絹織物が名産品として流通し、当地の産業・家計を支えてきた。この着物に親しむため、「長井紬」、「置賜紬」、「白鷹紬」を展示した。



展示全体



「白鷹お召し」の紋様

◆ 湯殿山行者 明寿海上人 ①

9月1日～10月1日（15日間） 来場者:204名

明寿海上人（みょうじゅかい しょうにん。1830年～1909年）は、南陽市小滝の松田家長男（本名は鶴松）として生まれ、湯殿山の一世行人となり、木食行を修めた修験者である。明治10年（1877）に塩田行屋（白鷹町十王）を開き、当地の信仰を支えた。湯殿山の仙人沢にいる神仏を彫像化した「御沢仏」（おさわぶつ）は、明治時代の神仏分離以降、大きく変化した湯殿山の信仰を今に伝える貴重な仏像群として近年注目されている。

上人の生家に残された法衣や錫杖、数珠など所持品から、明寿海および資料が残りにくい一世行人について周知した。



明寿海上人



行衣・法衣・行李など



不動明王御影



数珠



お注連



御札

◆東北文化の日 体験企画「稲穂から白米になるまで」

10月28日～11月12日（8日間） 来場者：14名

稲の脱穀（千歯扱き、足踏み脱穀機）、粳摺（キズルス）、精米の作業を体験できるミニ企画展を開催した。解説パネルの挿絵は地域おこし協力隊が担当した。



展示風景



解説版



キズルスの清掃

◆白鷹町の民具×農具ミュージック展

12月9日～1月14日（27日間） 来館者数：426名

主催：白鷹町文化交流センター あゆ一む

共催：白鷹町歴史民俗資料館 あゆみしる

後援：白鷹町・白鷹町教育委員会・長井市

会場：白鷹町文化交流センター あゆ一む

昨年に引き続き、民具と音楽のコラボレーション事業を開催した。今年は音楽ホールや広い展示室を備えた町文化交流センターを会場に、展示設計を当館が担当した。

展示には、サクソ奏者の岡淳氏がまとめる「音楽水車プロジェクト」によって制作された「農具ミュージック」を主力とした。「農具ミュージック」は、現代社会において役目を終えた民具達が楽器を演奏する装置として蘇らせたもので、足踏み脱穀機や座繰り器、唐箕が奏でる音楽を楽しんだ

これに呼応するように白鷹町の民具（当館収蔵品）を展示し、フカグツやズリ、ゆたんぽなど冬期間に使用した物や、盛んだった養蚕に関連する民具などを紹介した。また、葬儀に使用した龕（がん。死者を墓地まで運んだ神輿状の道具）や葬送時の写真を展示し、より深く白鷹の昔の生活に触れる場を設けた。

一部の「農具ミュージック」は白鷹町・長井市で収集した民具を使用して作られ、来場者が触って音を楽しめるようにした。

この展示に合わせて「農具ミュージックライブ」が開催され、展示品もステージに登場して民具と音楽の共演を楽しんだ（後述）。



展示室内



農具ミュージック



葬式関係の展示



樽バラバラフォン（長井市）



Phasing 座繰り



糸取り（座繰り）の道具

【ワークショップ】

◆Yamakai 紅マルシェ

7月8日(土) 参加者:12名

主催:Yamakai 紅マルシェ実行委員会

会場:十王地区コミュニティセンター

十王地区で開催されたマルシェに出店し、町内文化財の彫刻などを描いてキーホルダーを作るワークショップを開催した。あゆみしると同地区のイベントに出店することで、当館の周知を図った。



文化財キーホルダー



イベント風景



完成品

【音楽ライブ】

◆サカキマンゴーライブ「親指遍路と夜のあゆみしる」

5月26日 来場者:23名

昨年、民具の音楽「夜のあゆみしる」を制作したサカキ氏のライブを開催した。資料館保管倉庫の見学や、ライブ中に民具を鳴らすなど当館の特色も踏まえた内容となった。



保管倉庫見学



サカキ氏のライブ



ライブ風景

【関連イベント】

◆農具ミュージックライブ

企画展「白鷹町の民具×農具ミュージック展」の関連イベントとして農具ミュージックを主体にしたライブを開催した。本事業は令和5年度白鷹学講座の助成を受けて開催した。

12月16日(土)

主催:山ホド 後援:白鷹町文化交流センターあゆみむ

会場:白鷹町文化交流センター

来場者数:123名



農具ミュージックライブ



演奏の様子



杓を叩く

◆地域おこし協力隊とのイベント

5月27日(土)、9月11日(日)、11月4・5日(土・日)

あゆみしるの企画展を盛り上げるため、地域おこし協力隊の菅原大夢さんに依頼して、入館チケットと引き換えに飲み物を提供した。

あゆみしるコラボ

迎かいすほのほる舞い



vol.3

白鷺産の雪若人で作った甘酒
114瓶・115瓶
AM10:00～PM3:00
あゆみしる受付付近
(株) サンファームしらたか

※注意※

- ・ご入館いただいた方限定で、入館券の提示が必要です。
- ・数量に限りがあります。
- ・販売会ではありませんので、ご購入は出来ません。
- ・館内での飲食なので汚さないようお願いいたします。



株式会社 サンファームしらたか
山形県東田町 1693
TEL 0238-85-0825
E-mail sunfarm@shirataka.jp



3. 入館者数

総 数 1,302 名 (あゆみむとの共催展示入館者数を含む)

開館日数 165 日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
人数	121	212	125	47	25	196	58	28
共催展示								

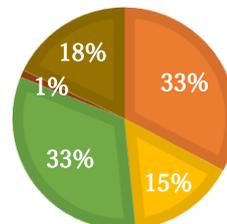
12月	1月	2月	3月	合計
24	11	23	6	876
426				426
			合計	1,302

*灰色のマスは企画展会期

展示別入館者数	人数
フラワー長井線	426
明寿海上人	204
民具×農具ミュージック	426
稲穂から白米になるまで	14
常設展	232

展示別 来館者数

- フラワー長井線
- 明寿海
- 民具×農具ミュージック
- 稲穂から白米
- 常設展



4. 施設活用事例

◆入館団体

町内	一般	東田尻ふれあいサロン、横町サロン
	教育施設	蚕桑小学校3年生、荒砥高等学校1年生
県内	一般	西川町研究会、高畠町糠野目生涯学習館、最上町文化財保護審議会
	教育施設	東北芸術工科大学
県外		東京外語大学山形スタディツアー

当館見学の際、特に児童の見学では、学習目的や興味のある項目を事前に伝えてもらい、目的に合った展示解説を行っている。常設展示品に不足がある場合は、保管倉庫の民具を展示やデジタル顕微鏡を用いるなど、学習を深める工夫を行っている。

◆資料貸出

町内	—
町外	上山城郷土資料館企画展示「上山ゆかりの建築家・耐震構造学の祖 佐野利器」、濱定史（作品協力：永岡大輔、中崎透）個展「技術の再実装」（やまがたクリエイティブシティーセンターQ1）、（一社）やまがたアルカディア観光局

◆関係する論文・出版物

なし

5. アンケート結果

◆館全体

- ・農具に触れられて面白かった。白鷹町の歴史がわかるもの（戦国や江戸など）があったら良い。
- ・大変素晴らしく展示されています。さらなる収蔵をお願いします。

◆企画展

全線開通100周年記念 フラワー長井線と白鷹町

- ・長井線の歴史、良かったです。切符の改札鉄楽しかったです。なつかしい！
- ・資料発掘のおかげで地元のそう遠くない歴史を見せていただくことができました。
- ・期待以上でした。普段目にする事のない、目にする事のできない貴重な資料が素晴らしかった。時があつという間にたちました。
- ・改札鉄で実際に切符を切り、駅員さんになれたようで楽しかった。
- ・とても勉強になりました。もっと早く来館すればよかった。
- ・長井線が目の前を通る所に住み、高校も長井線で通学した一人です。いつまでも長井線を語りたいたいと思いますが、今後はどうなるのでしょうか。
- ・改札鉄が楽しかった。

湯殿山行者 明寿海上人 ①

- ・とても分かりやすく白鷹の歴史に触れられました。
- ・貴重な資料をたくさん見ることができてよかったです。行屋の上人様がどんな方だったのか想像し、学びが深まりました。
- ・数年前、あゆむで御沢仏の展示があり、恥ずかしながら塩田行屋の事を始めて知りました。今回とても楽しみにして来ました。
- ・大変見ごたえのある内容でした。次回展示も楽しみにしております。
- ・出羽三山信仰と当地の関わりが分かる史料の展示・解説を今後も期待します。
- ・今まで行屋の歴史が分からずにいました。もやもやした気持ちが少し晴れた気がします。
- ・後で確認できるような簡単なチラシや行屋見学ツアーを行っていただきたいです。
- ・丁寧な解説が随所に入っており、とても分かりやすく勉強になりました。この展示を見たら「塩田行屋を参拝したい!」という方がたくさん出ると感じました。

白鷹町の民具×農具ミュージック展

- ・とっても面白かったです。先人の仕事の細かさ、工夫いっぱいの道具の素晴らしさに感動しました。農具ミュージックは自分でも演奏できてすごく愉しかったです。お葬式の展示もなかなか今では見ることのできないものばかり。どれも温かさを感じて懐かしい気持ちになりました。
- ・昔の農具の素晴らしさ、音楽の面白さを感じたとても楽しい時間でした。ありがとうございました。
- ・子ども（幼児）と来ましたが、触れるにもものが沢山あったので子どもも楽しんでくれました。唐箕や脱穀機の楽器が大変お気に入りだそうです。
- ・葬式など昔は参列者が大勢で一大行列であり大変だった。賄いも今みたいに仕出しなど無く手づくりでよく頑張ったものです。民具音楽はびっくりしました。
- ・昔の民具・農具を見せていただき勉強になりました。すばらしいアイデアと製作・音色・情熱、すべてに感動しました。楽しませていただき有難うございました。
- ・昔の様子が浮かんでくるようでした。不思議な空間に迷い込んだようでした。非日常を味わうことができ良かったです。
- ・民具をこのような形で楽しめるとは！！本当に楽しかったです。スイッチを何回も押したくなりました。
- ・農具ミュージックは全国各地に眠る民具に親しむ機会を提供しうるものだった。道具たちが現役だった頃を知る人々が減り、地域の歴史や産業についてより深く知るラストチャンスの中、世代を超えてこうしたものと触れる機会を作ってくれたすばらしい展示でした（主催側は楽しんでやっているのだと思いますが）。

6. 施設概要

◆資料館

構造：木造平屋建て

床面積：1階 370.38 m²

2階 111.30 m²

地階 16.34 m²

延床面積 498.02 m²



*館内パンフレットより

常設展示室：農耕、収穫、運搬、養蚕、窯業、紅花、青苧、和紙などの道具を展示

企画展示室：企画展やワークショップなどで使用

古文書保管室：常設展示室2階。古文書や地域史に欠かせない図書資料を保管しています。

◆保管倉庫

構造：木造2階建て

床面積：1階 203.38 m²

2階 182.78 m²

延床面積 386.16 m²

資料館の道向かいにある資料保管用の建物です。

1階に農耕用具・大型民具と絵画、2階に養蚕・機織りの道具、畜産、林業、生活に関わる道具を収蔵しています。

保管倉庫の見学は事務室にお声がけください。

